

■佐佐木高行 土佐藩士、志士、政治家。慎重派の典型で、維新直後の諸問題で、強硬急進派に対抗した。
ささきたかゆき
富籤流行・・・1830＝ 土佐国吾川郡瀬戸村(高知市長浜)で、土佐藩士佐佐木高順の長男に生まれる。
家は代々家禄百石であったが、高行出生前に父が病没したため大幅に減封され、姉千代子の夫谷潤三郎が佐佐木家を継いで高下を名乗り、その養子となった。

大塩平八郎乱1837＝ 7歳：

蛮社の獄・・・1839＝ 9歳：

阿部正弘首座1845＝15歳：

・・・・・・1848＝18歳：

貧苦のうちに成長して儒学・国学・兵学を学び、

ペリー来航・1853＝23歳：

藩の文武調役・作事奉行・郡奉行・普請奉行・大目付などを勤めて、_藩政に参画し、

蕃書調所・・・1857＝27歳：

_尊攘派の指導者武市半平太(瑞山)とも接触。

桜田門外変・1860＝30歳：

_その間、江戸・太宰府に赴き国事に奔走、

薩長同盟・・・1866＝36歳： 藩主山内容堂の命を受けて三条実美を訪ね、以後、藩論を倒幕にまとめて行く。
大政奉還・・・1867＝37歳： _上洛して後藤象二郎・坂本竜馬と大政奉還の建白について協議。ついで長崎に出張し、
明治維新・・・1868＝38歳： *戊辰戦争に際して海援隊を率いて長崎奉行所の接收にあたる。新政府に入り、
長崎裁判所助役・天草富岡知県事・刑法官副知事・刑部大楠・参議などを歴任し、浦上教徒事件を処理。

廃藩置県・・・1871＝41歳： 司法大輔に任ぜられ、_岩倉遣外使節団の一員として、アメリカ・ヨーロッパ諸国の視察に出、
_司法制度の調査にあたり、

明治6年政変 1873＝43歳： _帰国。征韓論をめぐる政府の分裂により板垣退助ら土佐派の多くが下野したのちも政府側にとどまり、
左院副議長・元老院議員を歴任、

初の民間工場1875＝45歳：
三つの内乱・1876＝46歳： _翌年にかけての土族反乱の頻発に際しては、再度高知に派遣され、
西南戦争・・・1877＝47歳： <西南戦争>で西郷軍に通じた土佐立志社の片岡健吉・林有造ら十数名を捕らえるなど、鎮撫に努める。
大久保暗殺・1878＝48歳： 翌年にかけて一等侍補を兼任、_天皇の側近に侍し、元田永孚とともに侍補の勢力を結集して君徳培養運動
を進め、内閣(参議)と対抗。

・・・・・・1880＝50歳： _元老院副議長。漸進的な立憲政治樹立を唱え、
明治14年政変1881＝51歳： _谷干城らと中正党を名乗って大隈重信らの急進論と対立、政変後の人事異動で、参議兼工部卿に就任。

秩父事件・・・1884＝54歳： 維新以来の勲功により伯爵を授爵。
内閣発足・・・1885＝55歳： *内閣制制定とともに閣外に去って宮中顧問官となり、
常宮昌子(明治天皇第6皇女)・周宮房子(同第7皇女)の御養育主任として奉任するかたわら、

初の対条約1888＝58歳： _以後没するまで枢密顧問官を務める。
帝国憲法発布1889＝59歳：
帝国議会始・1890＝60歳： 宮中・内閣に神祇崇敬を進言し、吉井友実・千家尊福らと神祇院設立の連動を進めるも採用されず。

また_西村茂樹らと明治会を設立し敬神・尊王・愛国思想の普及に尽力し、

郡司千島探検1893＝63歳：
日清戦争始・1894＝64歳：

白馬会・・・1896＝66歳： *皇典講究所長兼国学院長となり子弟の教育にあたる。この年、高行と改称。

教科書疑獄・1902＝72歳：

日露戦争終・1905＝75歳：

伊藤博文暗殺1909＝79歳： 侯爵に陞叙。
韓国併合・・・1910＝80歳： 東京麻布において、_病没した。